令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県南会場

科目　⑧放課後児童クラブに通う子どもの育成支援

◆　学童クラブでは、主体的に関われる環境づくりが大切となり、保護者との活動内容や子どもの姿をやりとりすることが大事である内容や、職員同士が仲間として互いの立場を考えながら伝え合い考えるということも大切であること、ホウレンソウ（報告・連絡・相談）はしっかりと行うことを心得ることを改めて学べた。また、声掛けの工夫を学ぶ中で、物の見方や受け取り方に変化を付けることで違った対応ができると感じたので、今後はそれを活かせると良いと思った。

◆　子どもが安全に過ごせる場所としての児童クラブの役割が大きくなっていると思いました。児童が自らの危険を回避できるように自己管理能力を育てていくこと、発達段階に応じた主体的な生活や遊びが可能となるような支援のほか、保護者が安心して子育てと就労ができるように支えることなど、どれも大切なことだらけです。支援員が一体となり取り組みたいと思います。

◆　あいさつをする、自分のことは自分でする、約束を守る、人に迷惑をかけない等、基本的生活習慣が出来ていない子どもたちがいる。その都度声掛けをしてはいるが、なかなか聞き入れてくれない。何度も何度も言ってしまうが嫌がられるだけで、子ども自身が自ら進んでやるにはどんな声掛けをすれば耳を傾けてくれるのかと悩んでいたが、「声掛けの変換」を参考にして、やる気が出る、元気になれるような声掛けをしていきたいと思った。

◆　子どもの健全な育成を図るために、子どもたちの心に寄り添い、少しの変化にも気づいて対応出来るようにしたい。つい言ってしまう「早くして」、「ちょっと待って」などという言葉を「声掛け変換」することにより、お互いに気持ち良く過ごせると分かり、実践していこうと思った。保護者からのクレームもよく話を聞き、いろいろな面を見直すきっかけと捉えたい。児童クラブが子どもや保護者にとって安心で居心地の良い場所にしていきたい。

◆　言い換えの指導にハッとする言葉がありました。「ちょっと待ってね」は言いがちで、特に、連絡がなく休んでいる子への確認や学習指導の最中は目の前のことでいっぱいいっぱいになってしまうので、反射的に言ってしまっていました。子どもからしたら大人が何をやっているかは関係ないし、言われなければ分からないことも多いので、時間を決めて全ての子どもと接する時間をとろうと努力します。